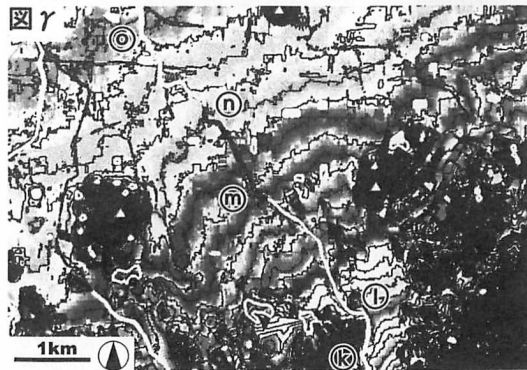
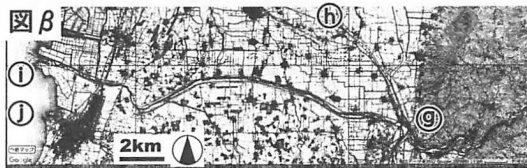
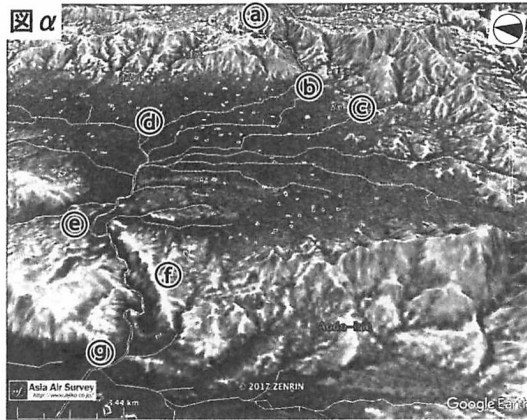


〔I〕 大和川水系の地形に関する次の文を図α～γを参照しつつ読み、それぞれの間に答え、その記号をマークしなさい。



一つの河川では、上流から下流までに、三種の沖積平野が順次形成されるというように、きみたちは学ぶ。ここでは奈良盆地南部から大阪湾に注ぐ大和川という一河川の出現形態の変化等をみて、そう単純ではないことを示したいと思う。

大和川は図αに示した笠置山地の(a)付近から始めて大阪湾に注ぐ。奈良盆地での他の河川を見ると、必ずしも大和川の流路が他を圧倒するものではなく、便宜的な選定によることがわかる。大和川という名称は奈良盆地の諸河川が合流して奈良盆地から広義の大阪平野に流下する故の名称と言えよう。

笠置山地に始まる大和川の奈良盆地への出口(図αの(b))には、長さ3 kmほどの小さな扇状地があって、この後背には谷底平野が続く。図αに見える奈良盆地には南北方向の河川が目立つが、これは図βに見える格子状の土地区画とほぼ

同質のものである。

図αの(e)～(g)間には峡谷が発達しており、これが生駒山地と金剛山地を分ける。⁽⁴⁾この峡谷の南岸側(f)付近には北東—南西方向の直線的な急崖が認められる。この峡谷には多くの被害を出した亀の瀬の地すべり地があり、大和川はその地すべり地の南端付近を流れる。

大和川は、図αおよび図βの(g)付近で、北流する石川と合流して西に進む。江戸時代の河川付け替え前は、大和川は石川と合流後、北流していた。図βの(h)付近にはかつての天井川であった旧流路地形を見ることができ、付け替え後の河道が海に注ぐ図βの(i)付近では三角州が形成され、新たに干拓されて新田が開発された。

図γは図αの(c)付近に位置する飛鳥川扇状地を主とする地域を示している。等高線間隔は2 mで、地形読図の補助のために段彩的に塗色している。山地部など比較的急な斜面は等高線が密に分布しているので黒く表現される。この等高線地図の上に、大和三山の頂上に当たる白い△と白い水域の地図を重ねている。図γでは、飛鳥川は図の南端の(k)から、(l)、(m)、(n)、(o)を通るルートで流れ、(o)付近から真っすぐ北に進むと平城京の主要道につながっている。

これまで見てきたように、古くから人の暮らす地での河道の多くは狭い水路として制御されていて、河川の流れる場のもともとの環境から分離されており、新たな地形を作り出し得る豪雨などがあると、その場のもともとの地形環境を垣間見ることができる。

問(A) 下線部①に言う三種の沖積平野の上流から下流への配列が正しく示されているのは次のいずれか。

- (ア) 谷底平野—扇状地—三角州
- (イ) 扇状地—三角州—谷底平野
- (ウ) 三角州—谷底平野—扇状地

問(B) 下線部②に関わって、大和川の奈良盆地からの出口にあたる場所は次のいずれか。

- (ア) 図αの(d)
- (イ) 図αの(e)
- (ウ) 図αの(g)

問(C) 下線部③の、土地区画の成立は次のいずれか。

- (ア) 縄文～弥生時代 (イ) 古代～中世 (ウ) 近世

問(D) 現在、下線部④の峡谷に関連して、最も関連が深いものは次のいずれか。

- (ア) 幼年谷 (イ) 瀞れ谷 (ウ) 断層谷

問(E) 下線部⑤の地すべり地で生じた被害に該当しないと考えられるものは次のいずれか。

- (ア) 多量の降水もないのに崖が崩壊して多数の死者が出た
(イ) 大和川の河床が隆起してその上流側が浸水
(ウ) 地すべりを避けるために鉄道位置を谷の北側から南側に移動

問(F) 下線部⑥を含む段落の記述から見て、大和川の付け替えに至った理由にあたるものは次のいずれか。

- (ア) 石川との合流点(図βの㉔)から西方域の水不足の解消
(イ) 同合流点から北方域での度重なる洪水からの回避
(ウ) 堺港(図βの㉑)の拡張

問(G) 下線部⑦の旧天井川河床跡で栽培された作物にあたるものは次のいずれか。

- (ア) ワタ (イ) サトウキビ (ウ) タロイモ

問(H) 下線部⑧に関連しての間である。等高線の配列から見てこの飛鳥川扇状地の扇の要にあたる部分は次のいずれか。

- (ア) ㊦ (イ) ㊧ (ウ) ㊨ (エ) ㊩ (オ) ㊪

問(I) 再び下線部⑧に関連する間である。扇央部と扇端部の境界にあたる部分は次のいずれか。

- (ア) ㊦ (イ) ㊧ (ウ) ㊨ (エ) ㊩ (オ) ㊪

問(J) 下線部⑨に関連して、主要な堆積場として不適当なものは次のいずれか。

- (ア) 図αの山麓の扇状地を含む奈良盆地 (イ) 亀の瀬を含む峡谷部
(ウ) 大和川と石川の合流点から河口まで

㊦ ← 前問訂正告知済

〔Ⅱ〕 次の文は世界および日本の貿易について記述したものである。文を読んで下の問1～問10に答えなさい。

経済のグローバル化に伴い、世界の貿易は年々拡大している。日本においても、多くの資源を海外に依存していると同時に、われわれの身の回りにあるものの多くを輸入に頼っており、貿易なくしては日本の生活は成り立たない。

かつて先進国と発展途上国との貿易は、垂直貿易と呼ばれる関係にあった。しかし、近年は発展途上国の中でも多くの多国籍企業が進出した(1)地域の発展によって、同地域と先進国の貿易は水平貿易へと変わりつつある。もっとも、現在においても貿易の地域間格差は極めて大きい。いち早く産業革命を成し遂げた欧米各国は、南アメリカやアフリカなどの国々に特定の製品の生産に特化させるモノカルチャー経済を押し付けてきた。これらの国々はモノカルチャー経済によって多くの問題を抱えている。

このような貿易の拡大は主要な国際機関によって進められてきた。GATTを発展させる形で1995年に発足した(2)は関税など貿易の障害となるものを撤廃し、自由貿易体制を進めることを目的としている。(2)ではすべての加盟国が貿易の上で無差別に扱われることを原則としているが、いくつかの国同士では互に関税をほとんど撤廃し合う自由貿易協定(FTA)を結ぶことが認められている。今日ではFTAを結ぶ動きが活発となっている。

さて、日本に目を向ければ、日本では戦前より原材料を輸入し、完成品を輸出するという加工貿易の形をとってきたが、近年その内容は大きく変わりつつある。また、日本の主要な貿易相手国も近年大きく変化しつつある。貿易が緊密になれば、日本は非常に大きなメリットを受けるが、同時にデメリットも生じ、解決しなければならない課題も増えてきている。

問1 下線部①に関して、垂直貿易の別名として最も適当なものを選び、その記号をマークしなさい。

- (ア) 東西貿易 (イ) 南北貿易 (ウ) 南南貿易